

日立製作所 (0463-87-6786)

「BladeSymphony コンピテンス・センター」を開設 「Oracle Database 10g」とのシステム検証・評価を開始

日立製作所 情報・通信グループは、同社の統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony(ブレードシンフォニー)」を中核としたシステムの検証施設「BladeSymphony コンピテンス・センター」を開設した。同センターはBladeSymphonyと自社製品およびISV/IHV製品を組み合わせ、システムの適正サイジング、性能チューニング支援、および互換性の検証・評価などを行うことを目的としている。その第一弾として、日本オラクルと共同で「Oracle Database 10g」を適用したシステム検証・評価を開始する。

近年の企業のシステム環境には、TCOの削減、業務量増加への柔軟かつ

迅速な対応、24時間365日のノンストップビジネスの実現などが求められており、これらに対応するプラットフォームを提供することが重要なポイントになっている。このようなニーズに対して、日立は、ハードウェアの統合運用によるTCOの削減やサーバモジュールの追加によるスケールアウト、サーバモジュール間をSMP接続することでスケールアップにも対応する柔軟かつ高いスケーラビリティ、メインフレーム技術を投入した高い信頼性を持つBladeSymphonyを中核としたシステム構築を行っている。今後は、同センターでの検証の結果や評価を活かして、BladeSymphonyを中心としたシ

ステム構築を強力に支援していく。同センターで行われる、日本オラクルとの検証内容は次のとおり。

技術支援・問題解決：両社が共同でBladeSymphonyとOracle Database 10gおよびクラスタ化技術Oracle Real Application Clustersのメリットを最大限に活かすシステムの提供に向けた、サイジングや信頼性、可用性などの検証・評価を行う。

データベース運用の省力化に向けた技術開発と検証：日立の統合システム運用管理「JP1」とOracle Database 10gとの連携によるデータベース運用の省力化に向けた技術開発と検証。

シスコシステムズ (03-5549-6500)

無線LANシステムのプロバイダー、Airespace社を買収 将来のワイヤレステクノロジーの普及を加速

2005年1月、シスコシステムズは、Airespace社の買収契約が正式に成立したことを発表した。Airespace社は、無線LANシステムのプロバイダーとして、エンタープライズ部門やコマース部門を対象に、安全性・柔軟性に優れた費用効果の高いソリューションを提供してきた。シスコシステムズは、今回の買収により、Airespace社の製品ポートフォリオによる同社の無線LANソリューションポートフォリオが強化されるとともに、同社のあらゆる顧客層へ主要な無線LAN機能の普及を加速することが可能となった。

近年、無線LAN市場が急速に拡大しつつある理由のひとつとして、ワイヤ

レスネットワークを導入することにより、協力しやすい環境を育み、ビジネスの速度を速めることのできる迅速かつ効率的な職場環境を築くことができるといえる。シスコシステムズは、今回の買収により、無線LANシステムの分野で実績のある優れた専門チームを獲得し、新製品の開発から市場投入までの期間を短縮することが可能となり、同技術分野におけるリーダーシップをさらに強化した。

またAirespace社の無線LAN集中管理アーキテクチャは、簡単な導入や使い勝手の良さ、管理性、ロケーションに徹底的にこだわって設計されている。Airespace社の製品には、ワイヤレス

IDS、標準規格ベースの広範な無線LANセキュリティポートフォリオのほか、運用上の複雑さを軽減する機能など、さまざまな分野の機能が盛り込まれている。

Airespace社の製品や技術が加わることで、シスコシステムズは業界で最も強力かつ包括的な無線LANソリューションを提供することが可能になるとともに、お客様の企業規模やさまざまなニーズに対応することができるようになる。同社は今後、現行製品の「Cisco Structured Wireless-Aware Network (SWAN)」フレームワークに加え、Airespace社の製品ラインの提供とサポートを行っていく予定である。

マイクロソフト/ラック (03-4523-3210/03-5537-2610)

企業内のPCのセキュリティレベルを簡単に測定できる 「職場のPCセキュリティ診断サービス」の無償提供で協業

2005年4月から本格施行される個人情報保護法を見据えて、社員が業務で使用する企業内PCのセキュリティの重要性が増しており、対策が求められている。セキュリティ対策は、まず現状を把握することから始まるが、企業内PCの調査は時間と手間がかかるため、なかなか実施できていないのが現状である。そこで、マイクロソフトとラックは、企業内PCのセキュリティレベルを簡単に測定できる「職場のPCセキュリティ診断サービス」を、ASPサービスとして2004年12月21日より2005年6月30日までの期間限定で無償提供している。

「職場のPCセキュリティ診断サービ

ス」では、企業内PCを使用する社員が、セキュリティに対する意識調査アンケートをWeb画面から行う間に、ツールを使い自動的にPCの環境調査が行われる。この組み合わせにより、システムと運用の両面から企業内PCのセキュリティレベルを簡易調査していく。同サービスはWeb形式のASPサービスとして提供されるため、診断のために特別なソフトウェアの導入は不要である。同サービスの利用方法は次のとおり。

登録：企業のシステム管理者、情報システム部門、社員のPCを一括管理している部門を代表して登録。同サービスのホームページの利用申込ページ

に必要な事項を登録し、専用の「管理者ページ」のURLと、ログインID、パスワードを取得

初期設定：専用の「管理者ページ」で、実施期間や調査結果の集計単位などの設定を行う。

調査実施：調査対象者に「セキュリティ意識調査アンケート」への回答を依頼。調査対象者がアンケートに回答している間に、自動的に調査対象者のPCの環境調査が実行される。

診断結果レポート送付：「初期設定」で設定した実施期間の終了後1週間以内に、診断結果レポートが登録の住所宛に送付される。

沖電気工業 (03-5445-5714)

SIP対応オフィス向け電話機「スーパーホンIP」を発売 企業内IPセントレックス環境下におけるIP電話端末の選択肢を拡充

昨今、通信キャリアのブロードバンドサービスの大容量化・低価格化を背景に、本社などの主要拠点にのみIP-PBXを設置し、地方などの出先拠点についてはIPネットワーク経由で主要拠点のIP-PBXによってコントロールされる電話端末を配備する、企業内IPセントレックスシステムの導入を検討する企業が増えている。企業内IPセントレックスによる全社の電話設備の一元運用管理により、設備コストや運用管理コストを大幅に削減でき、TCO削減への大きな効果を期待することができる。

沖電気工業は、同社のIPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server

SS9100 (SS9100)」を用いたシステム構築の提案により、このようなニーズへの対応を強力に進めている。そして2005年2月より、SS9100による企業内IPセントレックスに利用が可能な電話機端末のラインナップの1つとして、SIP対応オフィス向け電話機「スーパーホンIP」の出荷を開始した。

スーパーホンIPは、IP音声の品質確



スーパーホンIP

保に必須となるQoSの確保のため、IEEE802.1p/Qに対応し、データ通信との統合環境下でも、安定した音声品質を実現。また、IP端末の標準給電規格であるIEEE802.3afにも対応しているため、LANケーブルによる給電が可能であり、ACコンセントのない場所でも設置が可能。オンフックダイヤルやリダイヤル、受話音量調整、保留、ワンタッチダイヤルなどのオフィス用電話機としての基本機能をフルにカバーしており、電話帳機能や発着信履歴表示・発信機能といった便利な業務サポート機能も備え、コストパフォーマンスに優れたオフィス用IP電話機である。

アライドテレシス (0120-860-442)

IP 電話端末、告知放送機能付き VoIP ゲートウェイなど VoIP ソリューションの展開を本格化

アライドテレシスは、SIP 対応 IP 電話端末「CentreCOM CP 100TX」と、ブロードバンド・ルーター機能付き VoIP ゲートウェイ「CentreCOM RG601TX」、告知放送機能付き VoIP ゲートウェイ「CentreCOM RG601TX-SP」を順次発売し、エンタープライズや自治体における VoIP ソリューションの本格展開を開始した。

CentreCOM CP100TX は、SIP に対応し、企業に必要な各種電話サービス（リダイヤルや保留/復帰、転送など）、ディスプレイ機能、短縮ダイヤル、スピーカホン等の機能を備えた IP 電話端末である。また、IEEE802.3af 準拠の PoE 機能により、給電機能の付いたネ

ットワーク機器と接続することで LAN ケーブルを通じた受電が可能。さらに、CP100TX に搭載された LAN ポートにより PC をカスケード接続することができるため、デスク周りの配線を統合することができる（別売の AC アダプターからの給電も可能）。

一方 CentreCOM RG601TX は、10/100BASE-TX ネットワークポートの他にアナログ公衆回線ポート、電話機接続ポートを装備した、SIP 対応の VoIP ゲートウェイである。NAT、PPPoE、ファイアウォール、タグ VLAN 機能等を装備し、ブロードバンド・ルーターとして機能するので、柔軟なネットワーク構成が可能。SIP サ

ーバがない環境下でも筐体内部にユーザーの登録を行うことで、該当する機器へ発呼をかけることができる「VoIP アドレステーブル機能」を搭載している。

また、RG601TX のシリーズとして、スピーカーを内蔵し、IP ブロードキャストによる一斉通報機能付き VoIP ゲートウェイが RG601TX-SP である。この機能を使用することで、自治体などが有線放送で行っている災害発生時や緊急時の住民への一斉通知を IP ネットワーク上で行えるようになり、地域ネットワークにおける有効活用を実現することができる。

日本ヒューレット・パッカー (03-5304-6588)

ブレード型サーバでユーティリティ・コンピューティングを実現する 「BladeSystem」に関連した戦略、ロードマップ、サービスなどを発表

2005年1月、日本ヒューレット・パッカー（日本HP）は、ブレードシステムソリューションの新ブランド「HP BladeSystem」の全体的な戦略とロードマップ、ソリューションに含まれる製品とサービスの全体像を発表した。また、同ソリューションを展開するために必要な新しい導入支援サービスとファイナンスサービスを開始し、これらの強化策により、2005年の国内ブレード型サーバ市場におけるシェア30%獲得を目指していく。

刻一刻と変容するビジネスの世界で企業が生き残るためには、企業が変化に柔軟に対応し、さらに、その変化を有利に活用できる「アダプティブ・エ

ンタープライズ（環境適応型の企業）」になることが必要である。そして、そのような存在であるためには、企業の IT インフラストラクチャもまた、柔軟に変化に強くなければならない。2004年12月にブランド名を発表した HP BladeSystem は、ブレード技術をベースに、このような IT システムの構築を実現する体系的なソリューションで、アダプティブ・エンタープライズをブレード型サーバ中心のシステムでサポートすることを目指している。

HP BladeSystem は、ハードウェアのみのソリューションではなく、ソフトウェアやサービス、ファイナンスまでを包括したソリューションとして、

次のような特長をもっている。

モジュール化：HP BladeSystem の構成要素（ハードウェア、ソフトウェア、サービスなど）は全てモジュール化されているので、柔軟かつ迅速な拡張と管理を実現している。

「統合管理」「仮想化」「自動化」でユーティリティ・コンピューティングを実現：統合管理と自動化により、IT 担当者が最小限の時間とコストでシステムの管理、拡張や自動的なシステム復旧プロセスの構築などを行える。また、仮想化技術の活用により、ユーザーがコンピュータシステムそのものを意識することなく、業務に最適なりソースを常に活用することができる。

OSDL (03-6717-5435)

中国のLinuxソフトウェア開発のリーダーであるRed FlagがOSDLに参加 中国市場でのLinuxデスクトップとLinuxサーバ導入を推進

エンタープライズ・コンピューティングにおいてLinuxの普及拡大に取り組むグローバルコンソーシアムであるOSDLは、中国のLinuxソフトウェア開発ベンダーのRed Flag (北京中華紅旗軟件技術有限公司、Red Flag Software Company, Ltd) がOSDLのメンバーとなり、デスクトップLinux (DTL)、キャリアグレードLinux (CGL)、およびデータセンターLinux (DCL) の各ワーキンググループに参加予定であることを発表した。

Red Flagは、2000年6月の設立以来、Linux OSや複数のプラットフォーム上で稼動するアプリケーションソフトウェアの開発やマーケティングに注

力してきた、中国におけるLinuxソフトウェア開発のリーディングベンダーである。同社のLinuxソリューションには、Red Flag Linux Desktop、ローエンドからハイエンドまで対応したRed Flag Linux Server、Red Flag Embedded Linux、Security Server、Red Flagプラットフォームベースの各種インダストリーソリューションなどがある。Red FlagのExecutive PresidentであるChris Zhao氏は、OSDLへの参加について、次のように語っている。

「中国において、Linuxは大成功しており、あらゆる市場分野にわたってLinuxが広く採用される巨大なポテン

シャルがあります。Red Flagは、Linuxおよびオープンソース開発への我々の貢献が、グローバルなLinuxコミュニティに役立てることができるよう、国際的に認知されたOSDLに参加します。中国、アジア、そして世界中でLinuxをさらに発展させるために、OSDLおよび他のOSDLメンバーとともに、我々の経験と技術を共有したいと考えています。」

中国はLinuxが世界で最も急速に成長していると言われており、また中国IT調査会社のCCID Consultingは、同国のLinuxサーバソフトウェア市場は、今後5年間50%近くの年平均成長率で発展すると予測している。

APC ジャパン (03-5434-2054)

SAN/NAS およびストレージの時間差シャットダウンに対応した 「Priority Shutdown for APC」を発売

NCPI(*)ソリューションを提供するAPCジャパンは、電源障害時にサーバ、ストレージ、UPSを順序だててシャットダウン・再起動できる電源管理ソフトウェア「Priority Shutdown (プライオリティ シャットダウン) for APC」を2005年3月から、1ライセンス33,600円で販売を開始する。

システムに蓄積されるデータ量が増加の一途をたどる中、外部ストレージを持つことで大量のデータを格納し、サーバ間におけるデータ共有が可能となった。しかし、外部ストレージの増加は、電源管理を行う上で新たな課題をもたらした。電源管理ソフトウェア

とUPSを利用する場合、電源障害時にはサーバの自動シャットダウンが行えるが、同様に外部ストレージを同じタイミングでシャットダウンすると、サーバがストレージのデータを参照しているため、同期エラーが発生することがある。逆に、電源復旧時には、ストレージをサーバより先に立ち上げないと起動エラーが発生してしまう。

このような問題を解決するために開発されたのがPriority Shutdownである。同製品は、特にSAN/NASやOSを持たないストレージ装置を時間差でシャットダウン(および起動)することに特化した電源管理ソフトウェアで

ある。主な特長は次のとおり。

- ・時間差シャットダウン、再起動の設定が可能
- ・OSを持たない機器のシャットダウンをサポート
- ・冗長化されたUPSのシャットダウンをサポート
- ・ドラッグ&ドロップの簡単操作と見やすいシャットダウンシーケンス
- ・コマンドファイルの実行と監視

*NCPI: ネットワークに必須の物理インフラ。ITシステムの安定した稼動は、電源・空調などの物理インフラに依存しており、ネットワーク全体の可用性を向上させるには、NCPI層の可用性向上が重要であるという考え方。